

## ルールづくりを考える授業のすすめ方

### 1 「ごみ収集場所をどこにする？」

#### **1** ごみ収集場所はどこにする？

PRESENTATION

##### ○授業のねらい

- ☆多様な利害関係があることに気づく
- ☆相互の意見を十分に聞き合うこと
- ☆自分の立場をはっきりと知らせること
- ☆その上で、相互の立場にたって考えること

##### <授業のねらい>

この授業のねらいは、

- (1) ものごとの決定に関しては、多様な利害関係があることに気づくこと。
- (2) 問題解決のためには、相互の意見を十分に聞き合う必要があること。
- (3) 自分の立場をはっきりと知らせるとともに、相互の立場にたって考えること。

の3つを理解することです。

# 1

## ごみ収集場所はどこにする？



### PRESENTATION

#### ○多様な利害

##### ・多様な利害関係

→自分の損と得

→他の人の損と得

**が必ず存在することを理解する**



#### <多様な利害>

授業の1つ目のポイントは、多様な利害関係に気付くことです。ものごとを決める時には、自分の損と得、その他の人の損と得があり、そのことについて理解した上で、どのように調整し、合意するのか話合うことが重要です。

さらに説明するならば、様々な利害関係をきちんと整理する。つまり、ある選択や行為、ルール決定に対して、だれがどれくらいどのように得をして、また逆に、不利益を被るのか、そのことについて話し合いが行われるグループの中（当事者間）でどのように「理解」されているのか、そして、「合意」することができるのかといったことを話合うようにすることです。また後述しますが、「理解」と「合意」は全くことなるものであることを学ぶのもこの授業の特徴です。

利害関係がある、対立関係にあるということを明らかにし、認めて、話し合いを行うことは、これまではほとんど取組まれていなかった部分です。あるいは、意図的に避けてきた部分であったように思います。

しかし、この点を明確にすることが「ルール作りを考える授業」だと考えます。利害関係や対立関係にふたをして、理解も合意も混とんとした中途半端な「賛成」や「反対」だけを募るような話し合いでは、子どもたちは育たないと考えます。

「正解」や「決定」を求める「ルールを作る授業」との違いがここにあります。

# 1

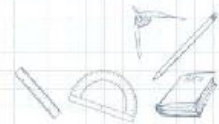
## ごみ収集場所はどこにする？



### PRESENTATION

#### ○理解と合意

- ・理解…相手の立場や主張の内容を「理解」
- ・合意…論点や争点についての「合意」
- ・「理解」と「合意」の混同→「理解は合意ではない」



#### <理解と合意>

2つ目のポイントは、先ほども述べましたが、話し合い活動における「理解」と「合意」の違いを知ることです。相手の立場や主張を「理解」することと、「ものごと」を「合意」とすることとはまったく別のものであり、「合意」にむかう話し合い活動を徹底して行うことが大切であることを知ることが授業のポイントです。

「相手の立場が理解できたから、「合意」できたのではない。」逆に、「自分の立場を理解してもらえたから、「合意」できたのではない。」当たり前のことなのですが、このことが明確でない、また、認めるべきではない雰囲気が小学校の現場にはあるように感じます。相手の立場や価値観、考え方が「理解」できるからこそ、整理された一つ一つの問題について「合意」を結ぶための話し合いを行うのです。

この「理解」と「合意」の混同は、利害関係の対立を避けてきた小学校の話し合い活動の中で大きな課題であると思います。対立を整理するからこそ合意ができるのですが、ねらいにある「相手の立場に立って考える」ことができるのです。

この2つの力を育てることが「ルール作りを考える授業」では、重要なことだと考えています。

# 1

## ごみ収集場所はどこにする？



PRESENTATION

### ○授業の説明(町内会図)



#### < 授業の説明 >

「ある町内の話です。これまで、佐藤さんの家の前がごみの収集場所でした。しかし、ごみを前日から出したり、後始末ができていなかったりといろいろな問題がありました。そこで、佐藤さんは、町内会長の木下さんに相談し、町内会で集まり、ごみの収集場所の移動や改善についての話し合いをもつようお願いしました。」

というシートの説明から始めます。ただし、町内会（話し合い）に出席する前に自分の立場や考え方を明確にするために、授業の前日に上記の説明をしました。また、それぞれの役割（担当）については、指導者からの指定としました。これは、希望制にすると当落により、感情的になったり、消極的になったりする場合があるので、「役割」として考えることができるようにするためです。

この話を受けて、児童は、パン屋の山田さん、本屋の松井さん、佐藤さん、コンビニの田中さん、町内会長の木下さん、鈴木さんの役になりグループを構成し、疑似町内会というグループでの話し合いを行います。また、付け加えて、高橋さんと、アパートの大学生6人は、当日の会合には欠席として話し合いを設定し、司会は、町内会長役が行い、話し合って決定したことを欠席者に伝える役も必要であるとしました。（どのように伝えるのかも話し合う）

話し合いのポイントとしては、それぞれの事情や言い分、利害関係をどのように整理し、欠席者がいる中で合意にたどりつけるのかなど、共通理解する項目を明らかにしな



がら、みんなで整理し、合意をめざすことです。考えなくてはいけないポイントが複数あり、利害関係も複雑です。どの部分を共通理解、共通目標として合意をめざすのか…、従来の話し合い活動とは大きく違う話し合いとなります。

# 1

## ごみ収集場所はどこにする？



PRESENTATION

### ○授業の様子

- ・パン屋さんの前は営業に差し支えるからやめた方がいい
- ・鈴木さんのお宅から遠いのごみ出しが大変では
- ・佐藤さんが困っていることは、ごみの出し方だ
- ・欠席した人にどのように伝えるのか
- ・ごみ出しがわるいのは大学生ではないのか… など



☆立場説明と理解、論点の整理、配慮事項、改善事項



### <授業の様子>

授業例を紹介します。

この授業では、

「ごみは決められた場所、日時にきちんと出す」ことが共通の目標となるはずです。これに対して、それぞれの考えや利害、配慮、欠席者の扱い等が多様な視点として取り上げられ、一つずつ解決をめざして話合われることとなります。

児童の意見を紹介すると…

- パン屋さんの前は営業に差し支えるからやめた方がいい
- 本屋さんの営業時間は大丈夫
- 鈴木さんのお宅から遠いのごみ出しが大変では…
- 佐藤さんが困っていることは、ごみの出し方だ
- 欠席した人にどのように伝えるのか？
- ごみ出しがわるいのは大学生ではないのか？
- アパートの住人が一番多いのだから、アパート前がいいのではないかな。
- ごみの当番を決めてみんなできちんと管理する
- 役所に頼んだら、ごみが散乱しないネットをもらえるはず。町内会長さんが代表で連絡してほしい。等

それぞれの事情（立場）をきちんと説明し、理解し合った上で、配慮事項や改善事項

を加味して合意に向けた話合いがされました。ただし、どのグループも「理解」はできても「合意」には至りませんでした。しかしながら、簡単に「合意」に至らないことが逆にこの授業の「学び」になるのです。

# 1

## ごみ収集場所はどこにする？



### PRESENTATION

#### ○授業について

- ・「答えをすぐに出さない」話合い
- ・何が難しいのかを考える
- ・一つ一つを整理して話合う



#### <授業について>

この授業では、話合いのポイント、目指す「合意」は、グループごとに異なります。論点となるゴミの収集場所も、「きまり」も異なります。しかし、「きまり」の目的や、収集場所を設定した理由がそれぞれの町内会（話合ったグループ）の中では、明確であり、配慮事項や改善事項の合意は形成されています。このような話合いをする中で、みんなのことをみんなで決めたからこそ、ルールに納得し、守ることができる。また、判断することができるのだと気づくことができるのです。

また、「ルール」という「答え」を求める授業ではありますが、「答えをすぐに出さない」ことを、ルール作りの考え方として学んでほしいと考えています。つまり、複雑の要素が絡んだ問題を考えるときは、話合うべき内容、特に利害関係が対立するものについては、まず、何が難しいのかをよく考えて、一つ一つ整理をしていくことから始めることが大切であることを学んでほしいわけです。

何について考えるのかを整理し、焦点をはっきりさせて話合うことで、対立関係にある困難な問題であっても対立して進まないのではなく、対立を紐解く話合いができるわけです。また、話合いの接点が見いだせるわけです。

安易に、問題を単純化したり、問題点をぼやかすようなことをしたり、「玉虫色の意見」でひとくくりにまとめたりせず、一つ一つの課題に対する丁寧な議論と、その上で「合意」を生み出す姿勢を学んでほしいのです。

「答えをすぐに出さない授業」に取り組むことは、交渉下手とされる称されることの多い日本国の課題に対応したものだと思います。粘りづくよく、一つ一つ丁寧に、そして、合意を得る力をつけていきたいと考えています。

## **2 クラスの代表は誰に？**

PRESENTATION

### **○授業のねらい**

- ・「選ぶための」視点を共通理解する
- ・「誰を選ぶのか」多様な立場や考え方を調整する
- ・その上で、「選ぶ」

### **<授業のねらい>**

この授業のねらいは、代表としてふさわしい「人を選ぶ」ためには、

- (1) 「選ぶための」視点を共通理解する
- (2) 「誰を選ぶのか」多様な立場や考え方を調整する
- (3) その上で、「選ぶ」

の3つを理解することです。

## 2

## クラスの代表は誰に？



### PRESENTATION

#### ○授業のポイント①

- ・運動会の色別対抗リレーの学級代表を1名選ぶ。
- ・対抗リレーは得点種目であり、勝敗を左右する。
- ・誰が代表になってもよい。
- ・放課後に色別練習が2回ある。



#### <授業のポイント1>

日々の学校生活の中で、代表を選ぶ場面はたくさんあります。じゃんけんであったり、投票であったり、くじ引きであったり、また、何か視点を決めて話し合ったり、時には、タイム測定等の数値で決定したり様々な方法で選出をしています。しかしながら、その選出方法と選出された人物が本当にふさわしいかどうかは、不明な点が多いはずです。

この授業では、架空の場面を設定して「選び方」と「選ぶ」の2点について話し合いをさせ、「選ぶこと」についての大切にすべき点と、それに沿った「理解」と「合意」を学ぶように構成しています。

話し合いのテーマは、「運動会の学級代表の選出」とし、

- (1) 運動会の色別対抗リレーの学級代表を1名選ぶ。
- (2) 対抗リレーは得点種目であり、勝敗を左右する。
- (3) 誰が代表になってもよい。
- (4) 放課後に色別練習が2回ある。

の4点を提示します。4点については、詳しい内容は説明せず、質問があればその点について担当の先生（架空）への問い合わせ項目として明示させるようにします。

例えば、「放課後の練習は必ず参加しなくてはいけないのか」は、答えを示さずに



そのことを問い合わせ事項として明らかにすべき点であると共通理解できるようにします。

## 2

## クラスの代表は誰に？



### PRESENTATION

#### ○授業のポイント②

・誰を代表するのかの学級で話合う。

・4人の中から1人を選ぶ。

①一郎…8秒2 立候補 練習2回 おとなしい

②二郎…7秒5 立候補 練習0回 明るく元気

③三郎…8秒5 立候補 練習2回 信頼

④四郎…7秒3 学級1番 練習不明 他種目



#### <授業のポイント2>

4人の中から一人を選ぶ話し合いをします。4人のプロフィールは、

名前	50m走	立候補	練習参加	性格等
一郎	8秒2	○	2回	おとなしい 練習にコツコツ取り組む
二郎	7秒5	○	0回	明るく元気だが、いい加減なところがある
三郎	8秒5	○	2回	学級委員 みんなから信頼されている
四郎	7秒3	×	不明	走力学級1番 他種目に出場

と示します。授業では、「自分ならだれを選ぶか」という立場で話し合いをするので、その根拠をもって参加をします。しかしながら、「ルールづくりを考える授業」ですので、何をポイントして選ぶのかの価値の調整からスタートします。

価値の調整も多様となります。

- ・得点種目で勝敗にかかわること
- ・立候補をどう扱う

- ・日々の学校生活をどう考える
- ・練習への参加状況
- ・走力
- ・リレーという種目 等

共通理解しなくてはならない価値がたくさんあります。その上，練習の参加の有無など問い合わせ事項も含まれるようになります。この整理をすすめながら，4人のプロフィール，学級の願い等を考え，選出までたどりつくように話し合います。

また，選ぶポイントが明確になってきても，次に選び方，そして，その妥当性などの理解と合意をすすめなくてはなりません。

## 2 クラスの代表は誰に？

PRESENTATION

### ○授業について

- ・「答えをすぐに出さない」話し合い
- ・何が難しいのかを考える
- ・一つ一つを整理して話し合う

### <授業について>

この授業も，「代表を決定する」という「答え」を求める授業ではありますが，「答えをすぐに出さない」ことを，「人を選ぶ」ときの視点として学んでほしいと考えています。つまり，「人を選ぶ」ときは，選ぶ視点や方法，基準を明らかにした上で選出していくことが大切であること，特に利害関係が対立する場合は，まず，何が難しいのかをよく考えて，一つ一つ整理をしていくことから始めることが大切であることを学んでほしいわけです。もちろん，価値は互いの「理解」であって，「合意」ではないこともわかったうえで選んでいることに納得してほしいのです。

「足の速い」という価値は唯一無二のものではなく，そういう価値を大切にして選出している人がいる，そして，「速い」とは学級における50m走の4月の記録をもって

順位付けをしているのだということを理解し、自分は、「足の速い」よりもリレーという種目では「練習」の方を高く価値づけている…、という多様な考え方を互いに明らかにしながら、「合意」にむかってほしいと思います。「じゃんけん」や「走ってみる」、「投票する」といった、1つの価値だけで簡単に人を選ぶことのない児童を育てていきたいと考えて授業を設計しています。